

第73回「資本論を読む会」

☆3月27日（木曜日）午後6時30分—Zoomで開催
資本論v2第2章「生産資本の循環」[岩波文庫(四)p94-]。

DAS KAPITAL

2月「資本論を読む会」は2月27日に開催しました。座長のTabeさんが急性胃腸炎で入院して、前日に退院したのですが、まだ復帰にはいたらず初の欠席でした。職場の用務などで参加できなかった方もいて、今回の出席は8名と、すこし少なめでした。

貨幣資本の総運動

$$\begin{array}{c} A \\ G-W < \dots P \dots W'(W+w) - G'(G+g) \\ P_m \end{array}$$



第1章「貨幣資本の循環」のまとめともいうべき「第4節 総循環」は前回に「読んだだけ」になっていたのですが、今回はTakチャンからのレポートを受けてから討論しましたが、相変わらず難しいですね。なかなか討論までには行きません。それでもひとつひとつのマルクスの解説を、左図式（ $G-W\dots$ というような）を見ながら聞いていくと、何となく分かるような気がします。

「流通過程は、その第一段階の $G-W$ （ A, P_m ）の終了後 P によって中断され…」(p77) というように…。

レポーターからは第1章貨幣資本の循環、第2章生産資本の循環、第3章商品資本の循環という概念中心の議論をくぐると、その後は「一気に読みやすくなるよ」と、慰められて、引き続き頑張らましよう—となっています。

次回は「第2章 生産資本の循環」に入ります。レポーターはanak。もう少しの辛抱です。

終了後の懇親会では、座長81歳の体調を心配して健康に関わる話題から始まって、「資本論第一巻をもう一回やり直したい」という話や、参院選といういつもでる政治テーマでしたが、今回は「散骨、お墓じまいなど」、みなさん関心のある高齢者特有の問題にまで発展しました。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/> 「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから-Takチャン

第一章 貨幣資本の循環 第四節 総循環

総運動では、前貸価値は、出发点と同じ形態に帰る。それゆえこの総過程は循環過程なのである。

資本価値は総循環中に貨幣資本・生産資本・商品資本の形態転化を行う。資本主義的経営による生産部門を包括する資本は産業資本である。3形態は産業資本の特殊形態を表すにすぎない。

生産物がモノではない産業のうち、経済的に重要なものは「場所の変更」を行う交通業だけである。

産業資本は、剰余価値取得と剰余価値創造が資本の機能である資本の唯一の存在形態であり、資本家と賃金労働者との階級対立の存在を含み、それ以前の資本は、産業資本に従属し、適応・変化する。

資本の循環過程は流通と生産との統一であり、この両者を包含する。貨幣資本循環は常に前貸資本価値の増殖を含むので、産業資本の一般的表現である。

循環定式は、一つの欺瞞・眩惑的性格(物神性)を帯びる。その力点は、「価値自体の増殖」にあるのではなく、前貸し「貨幣形態」がより多くの「貨幣形態」に戻るという、資本家の金銀量の増加にある。

- ①この総循環は、資本主義的生産過程を前提とし、貨幣資本 G が買う W は賃金労働者 A が扱う生産手段を前提とし、労働過程＝価値増殖過程という資本機能としての生産過程を前提している。
- ② $G-G'$ が繰り返されると、貨幣形態への復帰 G' と前貸貨幣 G は一時的なものになり、 $G-W$ は消失して、 P に席を譲る。 $G \cdot G'$ は、循環内で消失するにすぎない要因として現れる。
- ③循環の反復により、循環は $P \dots P$ という生産資本の循環として考察できる。貨幣資本循環の第一段階 $G-W$ は、反復される生産資本の単なる準備段階にすぎなくなる。
- ④他面では $W'-W'$ の商品資本の循環も現れる。それらの中で貨幣形態は等価形態である貨幣による価値表現としては消失する。貨幣資本循環の更新継続は、 $P \dots P$ 循環の継続更新を前提にしている。というのは、第一段階ですでに、 $A \cdot$ 賃金労働者が前提(P が継続しなければ死滅)、他方では買手の $G-W$ は売手の W' という商品資本を前提(P が継続しなければ資本も死滅)にして、生産資本の機能(価値増殖)を前提するからである。